

SPRING

No.96

日本大学生産工学部
2011年3月18日発行

■学部長メッセージ
卒業生へ贈るお祝いメッセージ

■特集
2010年の就職状況と
2011年の展望

■就職活動体験記

■学科ニュース

■CAMPUS NEWS

■連載／卒業生インタビュー

東京都第一建設事務所 補修課長 村山 公一さん

■平成22年度表彰学生

■ミモミのもっとBikaBika生産工

■平成23年度行事予定

卒業生へ贈るお祝いメッセージ



日本大学 生産工学部長

松井 勇

卒業生ならびに修了生の皆さま

卒業・修了まことにおめでとうございます。
ご家族の皆さまのお慶びもひとしおのことと
心よりお慶び申し上げます。

我が国はもちろん、世界の国々の社会経済情勢と産業構造は、日進月歩大きく変容しつつあります。特に製造業は人件費の関係で中国、インド、ベトナムなどに進出したため、我が国では産業の空洞化現象が顕在するとともに、自動車、新幹線、住宅、ロケット、衛星などに関連する新しい技術は、諸外国と世界市場での競争を余儀なくされております。

このような社会・経済状況の中で、我が国の多くの企業は、人件費を含め更なる経済的な効果を狙うがために海外に移転し、活路を見い出そうとしております。しかし、これでは我が国で培われた技術を用いて単に海外で生産するのみであり、そこには新しい技術や産業が生まれる素地は全くありません。

我が国の産業の生き残りと今後の発展は、新しい技術を創造することにほかなりません。特に、日本人は元来卓抜した工夫する能力、改良する能力があり、更に新しいものに挑戦する能力があります。我が国の産業が国際競争に立ち向かい、十分な効果を上げるために、企業は若い人材に新しい発想で、新しい技術や新しい分野の開拓を強く求め、その成果を期待しております。

卒業生・修了生の皆様は、我が国の産業界をリードしていく能力を有する人材であると確信しております。日ごろから社会・経済の動向をキャッチすると共に専門分野の勉強を怠ることなく、適切で適正な対応が望まれます。今後は、



中国や東南アジアをはじめとして、海外で仕事をする機会が多くなると思います。英語を母国語としない国々とのコミュニケーションには、世界の共通語として近年、英語が使われています。専門知識を修得し、専門技術を磨くことはもちろんですが、英語でのコミュニケーション力を身につけていただきたい。そのためには日本の社会とは何か。日本の文化とは何か。日本の歴史とは何か。日本の伝統とは何か。日本の技術とは何か。……専門分野の知識以外に知り得ておかなければいけないことが多いことも自覚してもらいたい。海外の人々に「本当に大学を卒業したの」と聞かれぬように。

次に、社会人としての心得を私から皆様に「4つのこと」を贈り、心にとどめていただきたいと思います。

1つ目は、「感謝の気持ちを持つこと。」社会の中では一人では決して生きてゆけません。周囲のいろいろな人たちの支援があってこそ仕事が成就します。

2つ目は、「目的意識を持つこと。」学生時代には、入学試験や期末試験などの目標がありました。しかし、これからは自分で目標を定めていただきたい。そして仕事の成果・成績は常にA以上でなければなりません。

3つ目は、「本気で物事に臨むこと。」プロのスポーツ選手であるイチローをはじめ「プロだね」と呼ばれる人たちは、毎日、不断の練習・勉強・訓練を行い、社会的責任感を持っています。単なるスペシャリストを目指すだけでなく、確かなプロ意識を一日も早く持ち、本物のプロフェッショナルを目指していただきたい。

4つ目は、「自分の考えを持つこと。」ミヒャエル・エンデの「モモ」のように、聞く耳を持ちながら、相手に自分の想いや考えをわかるように伝えることが重要です。

この「4つのこと」を頭の隅に入れ、いろいろな場面で思い出していただければ幸いです。

最後に、卒業生・修了生の特権とは何でしょうか。それは、卒業・修了後に大学を利用することができることです。何かありましたら、いつでも遠慮することなく、大学を訪れてください。皆さまのベースキャンプは、ここ生産工学部であり、研究室であり、卒業研究の指導教員であります。大学には、さまざまな分野のエキスパートが在籍しております。きっとより良い回答が得られると確信しております。

言うまでもなく、大学は知的生産として教育によりできるだけ良い学生を社会に送り出すこと、研究により研究成果を産業界で活用してもらうことが社会から託されております。

そして、卒業生・修了生は、社会での活躍が求められております。しかし、多くの困難が待ち受けているのも事実です。その困難に立ち向かうためにも、日本大学のスケールメリットを認識し、大いに活用してもらいたい。日本大学の校友（卒業生）は100万人を超えています。

さまざまな分野で、世界中の国々で活躍しています。もちろん、あなたがたも校友の一員です。

健康にくれぐれも留意し、失敗を恐れず、卒業生・修了生としての誇りと自信と勇気を持って、社会で大いに活躍されることを心より祈念して卒業生に贈るメッセージといたします。

おめでとうございます。

特集

2010年の

< 2010 年の状況 >

「超就職氷河期」、この言葉は2010年の流行語大賞にノミネートされた造語です。今を遡ること約10年前、1999年の新規学卒者の求人倍率（求人数 / 就職希望者数）は、リクルート調査によると0.99倍と1.0倍を割り込み、就職希望者に求人数が達しなかった状態を「就職氷河期」と呼びましたが、2010年は更に厳しい状況を迎えたことから、新たな造語が誕生したわけです。

これは2008年秋にアメリカの証券会社リーマンブラザーズの経営破綻を契機とした、グローバルな金融・経済ショックが引き金となっています。その裏には輸出貿易に依存する日本の産業構造（仕組み）の弱点があります。第二次世界大戦後の我が国の経済発展は、最大の輸入国であるアメリカの経済成長に支えられてきました。この関係は「アメリカがクシャミをすれば日本は風邪をひく」と揶揄されています。

従って今でも、アメリカ経済の停滞はすなわち日本の不況となって現れ、その影響から求人倍率も2008年2.14倍⇒2009年1.62倍⇒2010年1.28倍と、年々低下し続けています。同時に厚生労働省調査による就職活動が終了する10月時点の内定率も、2009年62.5%（前年に比べ7.4ポイント減）⇒2010

年は57.6%と、先に触れた「就職氷河期」の最低ラインの60%後半を下回っています。

このように求人倍率が1.28倍あるにも関わらず、なぜ内定率が低いのか、そのギャップは①企業規模（大きさ）別によってその倍率が異なること、すなわち1,000人以上の規模では倍率が0.7倍（5,000人以上は0.47倍）、1,000人以下では2.16倍（更に300人未満の中小企業は4.41倍と高い）となっています。しかしながら②大学の就職希望者の選択は有名大企業に集中し、更に③前年の2010年3月卒業者のうち8万7,000人が未就職者であり、この人たちが2010年の就職戦線に加わっていることなどが、大きなギャップを生み「超就職氷河期」を招いている原因です。

そうした中で生産工学部もかなり厳しい状況にあります。2011年1月現在の学部全体の求人総数は2,408社で、就職希望者は1,212名ですから、求人倍率は1.99倍ですが、実際の内定率は学部全体で65.4%（うち女子は62.1%）、大学院は72.8%です。最終的な就職決定状況は3月末日にならないと判明しませんが、過去の状況を参考にしますと、80%に到達するかどうかという予測です。

しかし、なぜ内定率がこれほどに

Contents

■ 学部長メッセージ	1
■ 特集	
2010年の就職状況と2011年の展望…3	
就職活動体験記	5
■ 学科ニュース	12
■ CAMPUS NEWS	15
■ 連載 / 卒業生インタビュー	17
東京都第一建設事務所 補修課長 村山 公一さん	
■ 平成22年度表彰学生	19
■ ミモミのもっと BikaBika 生産工	21
■ 平成23年度行事予定	22



表紙：顕義園の山田顕義銅像

就職状況と2011年の展望

低いのか、もちろん学科により内定率のバラツキもありますが、それぞれの専門的な知識や技術が生かせる業種・業態の景気によって企業の求人状況が変化しているため、と考えられます。

< 2011 年の展望 >

まず日本の経済状況と見通しについて考察してみましょう。一言でいえば就職状況が好転する材料は極めて乏しいのが現状です。特に企業側(求人)の採用要件と就職希望者(求職)の求める条件のバランスが崩壊状態にあり、かなりのミスマッチが生じていることです。

①米国の景気が回復しない⇒リーマンショック以降、米国の国内需要が停滞し購買力が減少しているため、日本企業の輸出が低調にとどまっている。

②円高の進行と定着⇒対米国ドルの為替レートが80円前後では、国内の製造コストがかさみ、輸出産業は回復しない。

③日本企業の海外進出(中国・東南アジア)が加速⇒国内雇用の縮小とグローバル展開のため、外国人(留学生)採用が増加。

④正規雇用者の厳選採用(特に大企業)の定着⇒大学卒業者の増加(20年間で進学率は2倍)と、将来の経営幹部要員としての正規社員雇用の減少。

⑤就職(就社)意識の保守化傾向の進展⇒学生は安定雇用や年功賃金の希望が増加、海外や国内遠隔地の勤務を望まないという意識への転換、それとは逆に企業側はチャレンジングで元気な活力ある人材を求める採用要件とのギャップなどが見通せません。従って2011年も超氷河期は続くものと予見されます。

この記事を読まれるころは、大多数の方々はこれからが就活の本番です。改めて自分発見と企業選択のポイントを申し上げます。

< 自分発見の5つのポイント >

- ①自分にとって働くことの意味を見出せているか。
- ②希望する仕事とそれを成し遂げるための能力があるか。
- ③目標達成のための強い意志があるか。
- ④自分の長所と短所を認識しているか。
- ⑤いろいろな人達と目標に向かって協働できるか。

< 企業選択の4つのポイント >

- ①業種・業界・業態によって求める人材像が相違することを認識しているか。
- ②マスメディアに登場する企業(有名大企業)が良い企業とは限らない(ブランドに囚われない)、独自の技術やアイデアを持つ企業(オンリーワン企業)を発見する。

③自己資本比率と経常利益率が高く、平均年齢が若い企業(借金が少なく、本業でもうけており、組織の活力がある企業)に注目する。

④自分の身の丈(能力の段階、性格の適合、意志の強さ)に合った選択を心がける。

皆さんの20数年間を振り返ってみれば分かる通り、自分と瓜二つの人間はいないのです。就職活動も選択する企業もそれぞれ違って当たり前なのです。超氷河期は自らが招いた結果ではありませんが、先に見たように個人の微々たる力ではいかんともしがたい状況なのです。

企業の戦略設定に「最適解(ベストの解)」と「満足解(ベターの解)」という考え方があります。この状況に立ち向かい開き直って、最適解を求め果敢に挑戦し続けるのか? それとも現実を直視して、希望する企業の条件を段階的に修正しながら満足解を追求するのか、これが大事な選択となります。この時に重要なことは、不確定なかつ信憑性に乏しい情報に左右されず、自らが確信をもった判断材料(経験、知識、情報、助言)で選択することです。

人によっては、長く遠い道程となるかもしれませんが、実は社会に出てからのほうが更に長い人生が待っているのです。就活はその入り口です。どうか見果てぬ夢にならないよう、そして自分を見失わないよう頑張ってください。



機械工学専攻

野見山 龍介 (マツダ㈱ 内定)

私は学部生のときから、自動車会社に就職したいと考えており、研究職を希望していたため、大学院へ進学いたしました。

私が本格的に就職活動を始めたのは大学院1年生の11月ごろからでした。リクナビやマイナビを通じて合同説明会や会社説明会に参加し、20社ほどブレントリーを行い、エントリーシートを作成しました。

一番初めに書いたエントリーシートには、私生活を中心に書いていましたが、就職指導課の方に「大学院生は研究結果を書いたほうがよい」とアドバイスをしていただいたため、研究の内容やエピソードを踏まえて書き直すことにしました。そのため、面接では研究の話題が多かったのですが、自分の行ったことを話すだけで終わってしまっていたため、なかなか内定を頂くことができませんでした。

そんな中、ホームページで見たマツダの独特の技術や考え方に共感し、入社を強く希望するようになりました。また、学校推薦の募集も行われていたので、学校推薦を利用することにしました。

学内選考も無事通過し、マツダにエントリーシートを送ることになりましたが、他社から内定を頂いていなかったため、自分の研究が志望した企業のどのような役に立つかを考えながら自己分析をやり直し、エントリーシートを何度も書き直しました。面接では、質問を想定しながらエントリーシートを作成していたため、緊張はしましたが、質問には答えることができました。

結果的に、マツダから内定を頂くことができ、大変満足しています。

後輩の方に覚えておいてほしいことは、自己分析と企業検索を十分に行ってほしいということです。

最後になりましたが、今回の就職活動で大変お世話になりました、機械工学科の諸先生方、機械工学科事務の方々、就職指導課の方々にはこの場を借りてお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。





電気電子工学科

中村 祐介（東京電力㈱ 内定）

私が就職活動を行うにあたって大切にしてきたことは“就職することを人生の目標にしない。あくまで通過点”という気持ちを持つことでした。就職することを目標にしてしまうと自分にマッチングしてない企業と頭ではわかっているのに“とりあえず”受けてみるということが起きてしまうからです。これは時間の無駄で本当に非効率的なので注意しました。気持ちの持ち様は非常に大切だと今でも思います。

就職活動を進めていく上でまず初めに私がしたことは、自分のキャリアビジョンを描き、目標や夢を明確にしたことです。ありふれたことかもしれませんが、これが原動力になり、目標という軸がブレなければつまずいたときに助かります。いつまでもわからないからといってこの部分を避けていたら、本気で取り組むことは絶対にできないと思います。“できるかできないかではなく、やるかやらないか”という言葉バイト先の店

長から呪文のように言われて正直うるさいなと思うこともありましたが、後々考えてみると確かにそうだなと感じます。

また、初めは全力で頑張れば自分だけでもなんとかなるだろうという安易な考えだったのですが、いざやろうとすると、思った以上に悪戦苦闘したのを覚えています。特に自己分析においては周りの友人からの意見の方が的確で、非常に参考になりました。新しい発見もあり今後の自己研さんにも役立つと思うので、自分一人で就職活動せずに周りの人の助言やアドバイスを聞くことも、とても大切だと感じました。

チャレンジ精神を持って積極的かつ主体的に行うと、就職以外の面で自己の成長につながると就職活動を通して強く感じました。就職テクニックや知識を身に付けるのも大事かもしれませんが、それ以上に自分らしさや熱意・覇気を企業に伝える力を身に付けることの方が非常に大事だと私は思います。

最後に、就職活動は精神的にも肉体的にも非常にエネルギーを使います。しかも近年100年に一度の経済状況の悪化により就職氷河期と言われていています。しかしそういう厳しい状況下で頑張っこそホントの意味があると私は思います。100年に一度と聞いて、“運が悪い”と思わずに100年に一度しか経験できないことですから“ツイてる”と考えられるくらいポジティブでいてほしいと思います。





土木工学科

星見 幸平 (市川市役所 内定)

私が就職活動を始めるにあたり、最初に興味をもった職種は公務員の技術職でした。

公務員試験を受験するにあたって、大学3年生の10月ごろから自身の志望する官公庁の説明会、試験の日程をインターネットで調べ、受験準備・対策のスケジュールを設計しました。また、これと並行して、どの自治体がどのような政策などをとっているかを調べ自分の働きたい自治体を具体的にピックアップしていきました。

説明会に参加することにより、各自治体の政策などを詳しく聞くことができるので、エントリーシートを書く際や面接準備にも大変参考になりました。さらに、どれくらいの、どのような受験者がいるのかを把握することもできたので、モチベーションの維持にもつながったと思います。

このほか、公務員試験を実際に受験した先輩方にも、どのように勉強していったら効率がいいかなどを相談し、独自の情報収集にも力を入れました。

私の場合、大学3年生の10月ごろから徐々に勉強を始めて、大学4年になってからは毎朝9時から自分の納得いくまで勉強するようになりました。外出する際や寝る前などでも、参考書を手放すことなく、常に携帯し、いつでも勉強が行える環境を整えていました。勉強の割合に関しては、土木の専門分野についてすでに大学で基本的な内容が身に付いていたので、まずは特に教養試験に力を入れて勉強しました。

ただし一方で、私は面接対策やエントリーシートの書き方などの対策を全くおろそかにしていたので、1次試験を突破した後はとても苦労をしました。研究室の先生や友達が親身になってエントリーシートの書き方などをレクチャーしてくれて、面接練習なども時間の許す限り行ってくれたおかげで、何とか事前の対策を間に合わせることができたように思います。早めに対策を行っていないと、肉体的にも精神的にもどんどん追い込まれてしまうので、でき

る限り公務員試験対策は早めに、具体的に行う方が良いと思います。特に、公務員試験では、私のように1次の筆記試験の勉強に重点を置き過ぎて、その後の面接対策などがおろそかになる人が多いと思いますが、公務員こそ面接対策を多く行ったほうが良いと思います。

このほか、対策の方法としては、勉強の間の気分転換として自治体のホームページを眺めたり、地域の新聞を読んだりすることも大事であると感じました。また、休日には自分の受験する区や市などの町を散策したりして、その町を好きになることが一番大事な試験準備であると思います。

就職活動は自分が社会人になる前に自分を見つめなおす良い機会であると思います。筆記試験での勉強も必ず役に立つことがあると思うので、後輩には、受験直前までに一生懸命、限界まで自身を鍛錬し、磨き、悔いのない就職活動を行ってほしいと思います。



建築工学専攻

伊藤 顕 (株)教育施設研究所)

私の就職活動の期間は、作品をまとめ始めた2009年12月から内定通知を頂いた2010年6月の7カ月間だった。組織設計事務所に選択肢を絞り込み合計14社に応募し、そのうち書類選考を通過したのが3社、即日設計を通過し最終面接を通過したのは2社のみ。設計職を志望する場合、目標を定めることで取り組むべきこととそのため削らなければならないことがはっきりと見えてくる。ターニングポイントとしての大学院での生活を参考にまとめるとする。

大学院進学後に研究室の共同制作者と設計競技4作品入賞という目標を立て、分野は絞らずに【住宅設計⇔都市計画】の多岐にわたる設計競技へ応募した。私は情報処理能力が低く、すぐにパンクしてしまう傾向があった。だから、欠点を克服するために、作品を作るだけでなくスケールを横断する能力を身に付け、デザインの選択肢を増やすという狙いもあった。さらに自分自身を試すために、学外

で建築家が主催するインスタレーションに参加した。運営から携わる機会に恵まれ、依頼者がいるプロジェクトの企画をデザインするという貴重な体験もできた。研究室という拠点から離れた場所に身を置くことによって、他大学の同期の就職活動状況を把握することにつながり、目標に向けて成長していく自分の立ち位置を確認する機会であった。外部の情報は刺激的で、より一層自身の向上の活力源となった。

結果として大学院では13作品に応募し、そのうち5作品で賞を頂くことができた。また賞とともにこれからも共に高め合える仲間もできた。学部卒業後、ただ漠然とアトリエで働きたいという選択肢しか持ち得なかった私が、いつからか自分の個性を前面に押し出すよりも組織の中で全体を構成しながらアクセントとして個性を打ち出していく自分の意識の移行に気付いたことで、組織設計事務所は個性の強い人間の集まりでアトリエ以上に違う思想・思考とぶ

つかることができる場所と考えるようになった。それは新たな視点獲得の機会であり、社会の中においてより良い建築や生活環境を作り出すことにつながるのではないだろうか。

私には次なる目標がある。いつになるか分からないが地元の青森県で設計活動を行いたいと考えている。「一人のためのデザイン⇔まちのためのデザイン」なのかもしれない。建築としてカタチにならないかもしれない。今はその目標に向けて社会での経験を積み、社会の中で自分の個性が発揮できる場を見定め、一人の建築家として活躍できる機会が来る時のために力を蓄えている。

この場を借りて恩師である大内教授を始め、研究室の諸先輩方、多くの時間を共有した同期・後輩に感謝の意を表したいと思います。良き理解者、共に競い合える仲間と環境に巡り合えたことが私の財産です。

本当にありがとうございました。



応用分子化学科

山本 美和 (株きもと 内定)

私は、就職活動で一番大切なことは自己分析だと思います。就職活動を続けている中でさらに必要なのがコミュニケーション能力だと感じました。

業界・企業研究、職種研究、自己PR、エントリーシート対策、面接対策などのすべてが自己を分析することによって始まるからです。まず、大学3年の10月から始まる就職ガイダンスを聞いて、就職活動サイトに登録し、大学で行なわれた企業説明会や在校生と卒業生との交流会にも出席しました。その中で、興味を持った企業の説明会には積極的に参加しました。それは、普段見ることのできない会社の中へ入れる絶好のチャンスでした。

学校生活との両立でどのように就職活動を進めれば良いのか迷いもありましたが、大学で順番に開かれるガイダンスを目安に準備をしました。就職活動に専念し始めた12月下旬頃、就職活動サイトでエントリー数を増やし始めると、驚いたことにこの時すでに募集を締め切っている企業もあって焦りを感じました。

冬休みに入って初めて企業へのエントリーシートを書き、就職指導課を訪れて添削してもらった、簡潔に論理立てて相手に伝えることの難しさを実感しました。それからはエントリーシートの提出や企業説明会、webテスト、筆記試験に追われる日々が続きました。すると、次の難関は面接でした。緊張して上手く話せなかったり、質問に上手く答えられなかったりもしました。

面接では、準備をしっかりと落ち着いて話すことが重要だと思いました。たとえ結果が悪くてもいい経験ができたと前向きに考え反省点を次に生かすことにしました。するとチャンスは訪れました。4月になって就職活動に行き詰まって研究室の指導教授に相談したところ、企業の名前をいくつか教えていただきました。このときにはこれまでの準備が実を結び、自分に合った企業の選考がうまく進み5月に内定の通知を頂くことができました。

就職活動を通して思ったことは、就職活動専用の手帳やノートを持つことです。履歴書やエントリーシートは必ずコピーをとり保管しておくに役に立ちます。また文章を自分以外の誰かに読んでもらうといいと思います。

就職活動は辛いですが、自分に合った企業を見つけられるように頑張ってください。

努力の甲斐があったね
おめでとう、山本さん





管 理 工 学 専 攻

福田 諒（三洋電機(株) 内定）

内定を獲得するためには「企業の採用基準以上の人材になること」が必要である。当たり前のことですが就職活動を終えて改めて実感しています。

企業の採用基準には専門スキル、人間性、英語、学生時代の経験や成果、その他にも学歴や印象などがあります。私の就職活動は企業の採用基準に一步でも近づき、それ以上の人材になるための活動でした。

1年間の就職活動の流れは、次のようになっています。

6～9月 インターンシップ

9～11月 スキルアップ

11～3月 説明会・企業研究

3～5月 選考

企業の求める人材とは何か、自分に足りないスキルとは何かという事を探すことから就職活動を始めました。具体的にはインターンシップに参加し企業の求める人材と自分に足りないスキルを見つけていきました。

また、インターンシップの合同説明会への参加やエントリーシートの提出などを早い時期に経験できたことは大きなアドバンテージになりました。

9～11月はインターンシップで気づいた自分に足りないスキルを向上させる努力をし、専門スキルを形にするための資格を取得しました。遅くてもこの時期までに自分のアピールできる能力を結果や形にしておくことが重要だと思います。

11～3月は企業説明会に参加し企業が求めている人材を更に詳しく調べていきました。また、会社のパンフレットや技術報告書などを読み企業研究も行いました。同じ業界でも、今後力を入れていく事業や会社のニーズを把握できるよう努めました。

3月からははいよいよ選考開始です。企業の採用基準以上の人材となるために形にしてきた専門スキルや学生時代の経験や成

果を、選考を通じて採用担当者に伝えました。結果として、企業のニーズと一致し採用基準以上と評価された複数の企業から内定が頂けました。

繰り返しになりますが、内定を獲得するために重要なことは、企業の採用基準以上の人材になることです。大学受験と同様、そのためには膨大な準備が必要でした。更に、たとえ十分な就職試験の準備をしていても人間性や学歴などで不合格となることがあります。学歴を変えることはできませんが、学生時代に力を入れたことや能力などのエピソードは今からでも作ることができます。後輩たちにはぜひ健闘してほしいです。



数 理 情 報 工 学 科

筒井 啓介 (富士電機 IT ソリューション(株) 内定)

私が実際に就職活動を始めたのは2月の終わりからでした。単位をいくつか落としていたため、3年後期に授業が多く入ってしまい当然期末試験もあったので遅れてしまいました。ここで、すでに周りとは差がついてしまったなと焦りながら就職活動を始めました。そこから4カ月間の就職活動の一連の流れをここに記そうと思います。

まず、これは下準備ですが、3つの就活サイトに登録しました。3つに登録した理由は各就活サイトの広告費の関係上1つのサイトだけに全企業が載っているわけではないからです。大企業から中小企業まで受けることになると思うので、覚えておいて損はないと思います。

登録を終えた後は、自分の興味がある企業の説明会に予約をし、参加をする。これの繰り返しでした。もちろんオフの日や移動時間は情報収集に努めました。就活をする上での基本的なルールやマナーは少なくないので、「知らなかった」ということがないようにしておくのも大切なことです。

次に説明会から選考に進む上で初めの関門の書類審査ですが、私は履歴書・エントリーシートと別に“自己紹介文”を作っていました。自分がどんな人間でこういったセールスポイントがあるかを強調するのは大事なことです。ただ、だらだら長い文ではなく簡潔にまとめることがポイントです。

文章で自分のことを表すのは大変ですが、ウェブサイトを書き方等のページも参考にしてみてください。

また、書類審査後又は書類審査に併せて筆記試験がありますが、SPIの問題集を1冊買って準備しておけば問題ないと思います。業界によって出題問題の傾向があるので、きちんと確認しておくことも必要です。

面接では、“元気よく笑顔で話す”ことを心がけました。

第一印象がかなり大事だと思うので不安な気持ちが顔に表れないようにすることが大事です。また、“圧迫面接”というものがありますが、実際に私も経験しました。「うちには君は合わないなあ」など平気で言っ

てきます。相手は答案用紙ではなく人間なので自分とは合わない面接官という場合も十分にあるのでそういうものにも耐えられるように平常心で臨みましょう。

以上のことを何度も繰り返しやっと内定を頂きました。正直、これをすれば受かるというものはないです。ですが、あえて1つ挙げるなら“数”をこなすということです。いくら厳しい就職活動でも企業という“的”は沢山あります。自分と合う会社を見つけるためにどんどん数をこなして、自分に最も合う“的”を射抜いてください。

機械工学科

学科初！パイロット免許取得学生誕生

機械工学科で初めてパイロット免許取得学生が誕生しました。8月初めから米国シアトルのプライベートパイロットスクールで研修を受けていた学生2人と同行の野村浩司教授が最終試験に合格し、パイロット免許を取得しました。おめでとうございます。

学科の新しい特色を創出することを目的に、本年度初めて実施したプロジェクトです。学生6人と野村先生が2ヵ月間英語を駆使しながら、60時間を超える飛行訓練および飛行機に関する工学・法規を研修した結果です。時間切れで最終試験に到達しなかった4人の学生も筆記試験には全員合格しましたので、再度渡米して飛行訓練を継続すれば免許が取得できる予定です。

野村先生による報告会が12月4日に開催されました。失速状態からの立て直し操縦訓練など、自動車免許教習とは比べもの

にならない貴重な体験などが紹介されました。2011年もパイロット免許を持つ機械エンジニアがさらに誕生するよう学科で全面支援していきますので、興味ある学生はふるって応募してください。



パイロット免許を取得した4年吉川勝也君

大野卓哉君 軽金属論文新人賞受賞

大学院博士前期課程2年大野卓哉君が、平成22年度軽金属学会「軽金属論文新人賞」を受賞しました。受賞対象研究論文は、軽金属学会誌「軽金属」の平成21年12月号に掲載され、久保田正広教授との共著の「メカニカルミリング法と放電プラズマ焼

結法による高強度純チタンの作製とその特性」です。本賞は30歳未満の第1著者に贈られる賞で対象論文66編から3点が選ばれました。学協会誌掲載論文での学生受賞は、特筆すべき快挙です。おめでとうございます。

さらに、下記学生も学会発表やコンテストなどで表彰されました。おめでとうございます。中村幸一（D2邊研）、青木翔（M2久保田研）、上野雄太（M2邊研）、大西英雅（M2邊研）、高橋朋哉（M2邊研）、望月裕太（M2邊研）、滝田裕一（M1邊研）、網野徹（4年邊研）、伊藤豪太（4年加藤研）、大金栄裕（4年邊研）、鈴木崇司（4年邊研）。



軽金属論文新人賞を受賞した大野卓哉君

電気電子工学科

粒子線がん治療装置の高度化に関する研究や粒子線加速器の応用研究等を目的に、平成22年8月1日から10月16日まで欧米に出張してきました。以下では、主に滞在した世界最大の粒子線加速器を有するCERNに関して報告を行います。

CERNはスイスのジュネーブ郊外にある素粒子や原子核といった基礎物理学分野におけるヨーロッパの中心的研究拠点であり、欧州19ヶ国が参加、出資して運営されています。CERNではこれまで物質を構成する要素とそれを結びつける力について研究するため数多くのシンクロトロン加速器が開発されてきました。その中でもLHC（Large Hadron Collider）と呼ばれる陽子-陽子衝突型加速器は直径約10 km、周長27 kmにも及ぶ巨大な装置です。レマン湖とジュラ山脈のふもとの間を地下100メートルの位置に延々とトンネルが掘られ、その中に超伝導電磁石や高周波加速装置が設置されています。加速エネルギーは世界最

海外派遣報告

欧州合同原子核研究機構（CERN）教授 中西 哲也

高エネルギーの7兆電子ボルトで、7兆電子ボルトの陽子ビーム同士を正面衝突させることによって、極めて高いエネルギーを発生させ、宇宙がどのようにしてできたか解明しようとしています。写真の筆者後ろにあるのは展示場に置かれている超伝導電磁石のカットモデルで、2つの陽子ビームを反対方向に周回させるための2つの超伝導電磁石が見えます。このモデルは実際のトンネル内を写した実物大の写真の前に置かれており、実際のトンネル内の様子が実感できます。

筆者の専門はシンクロトロンからのビーム取出し法の研究ですが、CERNではこれまで極めて高度なビーム取出し法の研究開発を行ってきており、筆者は滞在中これらについて研究するとともに、筆者が提案しているQAR法についてCERNの専門家と議論し、実用化に向けての高度化を

図ってきました。この取出し法は前述した物理実験用ではなく粒子線がん治療用シンクロトロンへの適用を考えて考案したのですが、今回の出張で得たさまざまな有益な情報を今後の研究に生かし、より効果的な治療が行える装置を目指して研究を進めて行きたいと考えています。



LHCの超伝導偏向電磁石の前に立つ筆者

建築工学科

川岸梅和 教授を代表とする川岸研究室チーム（北野幸樹 専任講師、創生デザイン学科研究生 杉本弘文、建築工学専攻博士前期課程 1年 稲富龍、久保木修平、小沼俊介、鈴木健太郎、永井悠次郎）は、第12回提案競技「美しくまちをつくる、むらをつくる」〔テーマ：「住んでよし 訪れてよしのまちづくり 富岡」、主催：日本建築学会関東支部〕において、最優秀賞を受賞しました。（平成22年11月6日）

本提案競技は、デザインの持つ力、重要性を社会に対して示す場として、日本建築学会関東支部継続事業として実施され、今回で第12回を数えます。今回のテーマは「歴史的建物を生かした 住んでよし 訪れてよしのまちづくり 富岡」であり、課題地は「富岡製糸場周辺区域（特に富岡市景観計画において定めている特定景観計画区域内）」でした。「富岡製糸場と絹産業遺産群」は、平成19年にユネスコ世界遺産暫定リストに登録され、世界遺産登録を目指してさまざまな地域活動が行われています。製糸場周辺には、明治、大正、昭和初期に建てられた建物が数多く存在しています。現在は建物の外観は、看板や外壁により化粧されているものが多くなっていますが、それらを取り外すと建築当時の外観が現れます。また、製糸場

日本建築学会関東支部主催の第12回提案競技で、川岸研究室チームが最優秀賞を受賞

周辺には魅力的な路地が多く、昔ながらの風情や雰囲気が感じられるところでもあります。



現在、サステナブルな環境共生社会・低炭素社会への志向、価値観やライフスタイルの多様化、食への安全性や健康・美容への意識の高まりなどの現代のニーズを受け、物質的な豊かさ（ハードの質）と同時に、暮らしの安全・安心や心の豊かさ（ソフトの質）への重要性が高まり、時間の流れの中で紡ぎ出されはぐくまれる時間消費型の余暇活動やコミュニティ活動の再生、種々の活動の受け皿となる近隣地域での生活・余暇空間の創出、地域に根ざした地縁・血縁の付き合いと新たな交流（知縁）の創出、地産地消による新たな事業と地域資源の循

環が強く望まれています。

本作品は、「Community Supported TOMIOKA〜塔が彩る地域資源を活かした居住者主体のまちづくり〜」を作品タイトルとして、本計画では、富岡の有する多様な地域資源（人的資源、空間資源、材料・エネルギー資源）をまちの担い手である地域居住者主体のまちづくりによって結び、つなぎ、再生・活用していくことで生活の利便性を高め、新たな価値を創出し、回遊性が高く歩いて暮らせるコンパクトシティを形成します。そして、人・活動・空間・時間の相互浸透・相互補完と Community が Support する住んでみたい・訪れてみたい固有の魅力を持った美しいまち・むら

を創出する相互浸透のデザイン・安全のデザイン・共生のデザイン・再生のデザイン・協同（働）のデザイン・交流のデザイン等、12のデザインを提案しています。



応用分子化学科

平成22年9月25日（土）と26日（日）の両日、岩手大学工学部で開催された平成22年度化学系学協会東北大会において、優秀ポスター賞を受賞しました。この賞はポスター発表において発表内容、プレゼンテーション、質疑応答などにおいて優れた講演で、講演者の今後の一層の研究活動発展の可能性を有すると期待されるものに対して贈られるものです。今回の大会では317件のポスター発表の中から42件が選ばれました。

私の研究テーマは「キラル補助基を有するフルオラスレゾルシンアレーンの合成とその自己組織化」であり、所属研究室の清水正一教授、市川隼人助教からのご指導を受け日々研究を行っています。この研究の背景には、揮発性有機溶媒が人や動物への直接的被害だけではなく、地球環境と生態系にも及ぶことが明らかとなり、使用量削減が急務となっていることがあります。そのため揮発性有機溶媒をグリーン溶媒の水、イオン液体、フルオラス溶媒などに置換する研究が世界的規模で行われており、私の

平成22年度化学系学協会東北大会において、優秀ポスター賞を受賞

博士前期課程 2年 袴田 祐介

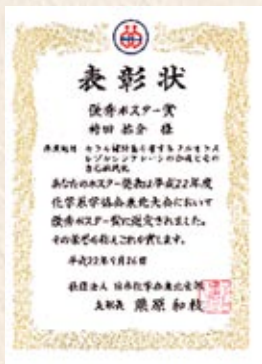
所属する研究室では、このフルオラス溶媒を活用した新たなプロセスの開発に取り組んでいます。

今回、私はフルオラス溶媒中で形成する6量体分子カプセルの応用としてラセミ体の選択的包接を行いました。

ラセミ体とは鏡像体のR体とS体とが等モル量混合したものです。医薬品としてその生理活性を調べるためにはそれらを別々に分離して調べることが求められています。カプセルに鏡像体を見分ける機能を付与した結果、高い選択性で識別して包接することがわかり、新規な光学分割剤となることが確かめられました。今後さらなる利用が期待できます。

今回の私の発表が優秀ポスター賞に選出され

たことは、今後の私にとって大きな自信につながるだけではなく、日ごろの研究が客観的に判断して興味深い研究であると評価していただけたと思います。



環境安全工学科

平成 21 年 4 月に創設された環境安全工学科は、この 3 月で丸 2 年を迎えた。環境安全工学科では、2 年次後期から環境安全コースと環境エネルギーコースとに分かれる。両コースとも環境・安全・エネルギーに関するコース共通科目のほか、2 年生後期には、コースごとの特徴を踏まえた必修の実験科目が設置されている。

環境安全工学科の特徴は環境・安全・エネルギーのほか製造物責任法や法工学をはじめとする社会科学系科目をも包含した複合的総合工学を学んだうえに、コミュニケーション能力をも身につけることである。ここでは、環境安全工学科で特徴科目として設置している 2 年次後期から 3 年次後期までの「インターナショナルコミュニケーション I～III」及び「ゼミナール I、II」（3 年次必修）についての取り組みを紹介する。

環境安全工学科は、(1) 生産工学の素養を持ち持続可能な社会を担う環境・安全・エネルギーのサステナブルエンジニアリングコーディネーター、(2) 社会科学の素養を持ち国際社会で活躍できる、環境・安全・エネルギー問題を牽引するガバナンスエンジニア、すなわ

環境安全工学科の特徴あるカリキュラム

ち(3) プレゼンテーション・ドキュメンテーション・インターナショナルコミュニケーション能力を有する環境・安全・エネルギーのプロフェッショナルであるグローバルエンジニアを養成しようとしている。特に、インターナショナルコミュニケーション能力の養成では、主にネイティブスピーカーによって講義を行う「インターナショナルコミュニケーション I～III」を学科の特徴科目として設置している。さらに、当学科では、TOEIC を運営している団体から ID を取得し、平成 23 年 2 月に津田沼校舎 37 号館にて TOEIC Bridge の IP テストを実施した。また、少人数グループを

構成し、このグループごとによるプレゼンテーションの試験も行い、これらを総合して成績を評価している。

平成 23 年からの 3 年次前期のインターナショナルコミュニケーション II では、プレゼンテーション・ドキュメンテーションを含め基礎的な専門英語を学び、後期の同 III では、さらに環境・安全・エネルギーに関する

視点も取り入れてインターナショナルコミュニケーション能力を習得し、TOEIC IP にてその成果を計ることとしている。

さらに 3 年生の必修科目として、ゼミナール I、II を前・後期に開講する。環境安全工学科は、広範囲な科目を設置していることから、前期のゼミナール I では環境安全工学科の 3 系列 5 領域の学問体系から 1 つの領域を希望させて専門性の高い教育を行い、後期のゼミナール II では各教員に配属して 4 年次の卒業研究へとつなげ、広範囲な学問の中に太い専門性を有する教育を目指していく。



生産工 こぼれ話

宅建試験の会場になった生産工

宅地建物取引業（不動産屋さん）を営業する場合、専任の取引主任者という資格を持った人を置かなければなりません。部屋を借りるため不動産屋で契約したことがある人なら、契約前に物件説明を受けた覚えがあるかと思いますが、その説明人が取引主任者に当たるわけです。取引主任者になるには、はじめに宅地建物取引主任者資格試験に合格し、試験を実施した都道府県知事の資格登録を受け、かつ、当該知事の発行する宅地建物取引主任者証の交付を受けてはじめてなれます。

平成 22 年度の宅地建物取引主任者資格試験は 10 月 17 日に全国一斉に行なわれ、日大生産工の津田沼校、実習校の両校でも千葉県会場として当日多くの受験者が集まりました。ちなみに平成 22 年度の試験状況は全国で受験者数は 186,542 名で、合格者は 28,311 名でした（千葉県は受験者数 10,819 名、合格者 1,738 名）。



実習校舎に集まる受験生

別に職業と考えなくても、将来、家や土地を借りたり買ったりする場合に役立つ知識にもなるので、時間の合間に勉強して、諸君も母校の会場で挑戦してみては。

（財団法人不動産適正取引推進機構 <http://www.retio.or.jp/index.>）

キャンパスアイディアコンペ 2010 開催

生産工学部及び大学院生産工学研究科の学生が、自由で豊かな想像力・構想力に基づく持続可能なキャンパス計画に向けたアイディアを競う「キャンパスアイディアコンペ2010」が平成23年2月4日（金）に開催されました。

物理的な環境だけではなく、心に記憶され、思い出に残る、生き生きとした心豊かなアイディアや独創的な作品が多数提案され、充実したコンペとなりました。

最優秀賞

作品名・テーマ	「ホテル出てこいやあ～ホテルのいるビオトープ～」		
制作者	山科祐華	応用分子化学専攻	博士前期課程1年
共同制作者	児島紗江子	応用分子化学科4年	
	佐藤 匠	応用分子化学科4年	
	福田晋一	応用分子化学科4年	



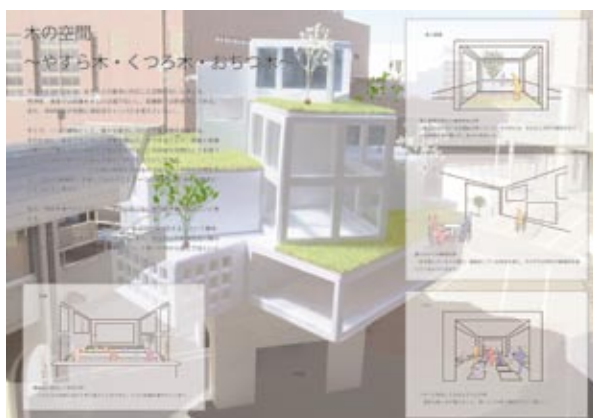
今回も力作が多かったよ！次回も感性を研ぎすまして挑戦してね！



優秀賞

作品名・テーマ
「木の空間～やすら木・くつろ木・おちつ木～」

制作者	田代幸弘	建築工学科1年
共同制作者	竹内賢吾	建築工学科1年



優秀賞

作品名・テーマ
「共育ゆにばーしてい
～地域社会と共にある開かれたキャンパス～」

制作者	新堀浩之	建築工学科4年
共同制作者	小沼俊介	建築工学専攻 博士前期課程1年



文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 第3回地域連携研究プロジェクト研究発表講演会開催

地域連携研究プロジェクト（研究代表者：土木工学科・木田 哲量教授）の研究発表講演会が平成23年2月25日（金）に本学部津田沼校舎で開催されました。本研究プロジェクトは、文部科学省から私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の選定を受け、平成20年度から（研究期間：3年）スタートしました。千葉県で主に事業活動をしている企業及び地方公共団体と密接に連携して、地域生活に安全・安心を与えるための技術の開発を推進し、その全国展開を目指すものです。さらには、地域の土木、建築、各種管理設工事などの従事者が、本研究プロジェクトの成果である付加価値の高い技術を駆使した新たな事業展開を図ることにより、地域経済活性化への貢献も目的としています。最終年度となる今回は、21件の研究発表講演と学内外からの聴講者132名（うち学部内105名、学部外27名）を得て、盛会裏に終了しました。



前日の台風が過ぎ去って、爽やかな秋の日曜となった10月31日、第3回風力発電コンペ WINCOM2010は無事終了いたしました。参加者の皆さま、ありがとうございました。今回の結果を発表いたします（氏名の敬称略）。

発電量部門

◆高校生チーム

※最優秀賞は高校生の発電量部門のみとします。

最優秀賞

足利工業大学附属高等学校
「Brand New Wind 2010 1号基」殿
指導教員名：近藤隆重 西牧宏之
代表者氏名：荒井拓弥

優秀賞

千葉県立国府台高等学校
「フーティー」殿
指導教員名：米山知諭記
代表者氏名：木村めぐみ

デザイン賞

山形電波工業高等学校
「王将風力電波 2010」殿
指導教員名：若槻浩二
代表者氏名：斉藤雅斗

デザイン賞

千葉県立幕張総合高等学校
「DENKEN - 02」殿
指導教員名：増山正和
代表者氏名：内池 巧

アイデア賞

千葉県立柏の葉高等学校
「ENERGY BREEZE」殿
指導教員名：高柳幸哉
代表者氏名：江口瑠二

アイデア賞

山形県立山形工業高等学校
「ゴルゴ 90」殿
指導教員名：奈良 厚 逸見健太
代表者氏名：田中彩夏

日本風力エネルギー協会賞

千葉県立茂原樟陽高等学校
「WOODY WING」殿
指導教員名：中村文雄
代表者氏名：小下正敏

◆オープン参加

優秀賞

東京都立産業技術高等専門学校
「Esperanza」殿
指導教員名：伊藤宏一
代表者氏名：根本祐太郎

デザイン賞

日本大学生産工学部機械工学科
「(TEK)² SAN」殿
代表者氏名：佐藤大地

生産工学部は、学生が中心のキャンパスを目指し、教職員はもちろんのこと多くの方たちがさまざまなかたちで学生をバックアップしています。なかでも一段と心強いサポートをしてくださる卒業生の方々を紹介するのがこのコーナーです。今回は東京都第一建設事務所補修課長の村山公一さんにご登場いただきました。



東京都第一建設事務所 補修課長 村山公一氏

笑われてもいいから夢を持て。
大きな夢を持つことがすべての
始まりだ。

■真の目的は何か—その後の行動指針を学んだ学生時代

高卒で一度は就職しましたが、時代は折しもオイルショック後の不況だった。高卒はとても不利でした。困って本学に在学中の友人に相談したところ、誘われ、親友がいるなら安心だとばかり、土木工学科に入りました。

入学はしたものの、待っていたのは赤貧生活でした。食べるのに苦労し、住むところにも困るような状態でした。たまた

ま知り合った中山法華経寺の境内のおでん屋さんの二階に2年ほど居候させてもらい、大学では学食のカレー皿などを雲形定規代わりにして図面のカーブを描いてるような状態でした。当時の学食のカレー皿は、深くて縁が持ち上がっていて、私にとっては最高の定規でした。

卒論のテーマは「マズローの欲求五段階説と離島開発計画」。簡単に言えば、離島に大型船が接岸する立派な岸壁を一足飛びに建設する開発計画は、小さな漁船に乗って生活している島民の現状

を考えたとき、本当に役立つのだろうか、というような研究でした。

担当の小林良久先生は、当時東京都の局長級の方で、外部講師としてこちらにお越しになっていました。小林先生には「なぜ?」とその目的をよく聞かれました。一通りの目的を答えると、「いや、そうじゃないんだ。その目的は何だ」と。要するに「目的の目的」を聞かれる。

当時は、都の偉い方で企画計画的なことをされているからかな、と思いました。が、今振り返ると、これがずいぶん勉強

になっています。今も職場で職員とよくこんなやりとりをします。

「今年の目標は何だ」

「道路を10キロ造ることです」

「じゃあ道路を造る目的は何だ」

「本年度の計画ですから」

これでは、「予算が削られて10キロの所定の道路が造れません」ということになってしまいます。

道路を造るのはいい街をつくるため。都民にいいインフラを提供するため。そういう本来の目的をしっかりと押さえれば、限られた予算の中でも優先順位がつけられるはず、と。

小林先生にたたき込まれた「目的の目的を押さえる」ことは、現在でも私の行動指針となっています。

■最先端の技術を駆使した自らのプランが新しい東京を構築する

東京都を就職先として選んだきっかけは2年、3年のときの生産実習です。私は一流コンサルタントとゼネコンの現場、両方に行かせてもらいましたが、ゼネコンの現場は非常に大きな仕事をしていて魅力がありました。

私が行ったゼネコンの現場は、都営地下鉄の駅を造る工事現場でした。工事が進む中で、いろいろ支障が出て計画の変更を余儀なくされるわけですが、そんなときに、東京都の交通局の人が来て打ち合わせをします。その指示が非常に的確で、ゼネコン側もいろんなことを検討して都側に相談するのですが、それよりも高いレベルのアドバイスが返ってくる。「これはすごい。役人というのは大したものだ。自分もなれるものになりたい」と

思いました。前述した小林先生にも勧められ、淡い期待を抱いて受験したところ、運良く都職員として採用されました。

都に入ってから、水道局を振り出しに現職の第一建設事務所補修課まで、都市計画局、総務局、建設局などでさまざまな業務に当たってきました。現在担当しているのは、おもに都心3区のインフラの維持・管理です。

例えば、隅田川にはさまざまな橋が懸かっており、さながら橋の博物館と言われています。これらの橋の維持・管理も私たちの仕事です。中でも清洲橋、永代橋、勝ちどき橋の3橋梁は平成19年に国の重要文化財の指定を受けました。それを今後250年以上にわたり使用可能な状態で保存しなければなりません。そのため、目下補強策の検討を進めているところです。

管内に残されたこれら土木遺産を十全に保存しながら、新たな建設計画にも維持・管理の視点を織り込ませることが、成熟社会の土木行政のあり方だと考えて実践しています。

最先端の技術を駆使した自らのプランで新しい東京を構築し、都民の方々に喜んでいただく。それで食べていけるわけですから、最高の仕事をさせていただいていると思っています。

■ブランドに自信を持って「夢スパイラル」実現へ

本学の学生について思うことは、「あなたたち生産工学部の学生のポテンシャルは相当に高い」ということです。皆さんとお話しをすると、残念ながらそのことに気づいていない方が多いようですが、もっと本学のブランドに自信をもっていい。そし



て夢を持ちましょう。

人は夢を抱くと目標を持ち、これを実現しようと計画を立てる。計画を立てると何らかの行動を起こす。行動を起こすと成果が生まれる。成果が得られれば自信がつき、ついには夢が叶えられる。これが「夢スパイラル」です。

本学の卒業生がすでにさまざまな分野で活躍し、夢を実現しています。皆さんも、どうぞ夢を抱き、自信と誇りを持って、その実現に向けてチャレンジし続けてください。

《取材後記》

時折、考えながらの受け答えは実に丁寧で、背筋を伸ばした姿勢は終始崩れることがありませんでした。後輩へのアドバイスを伺ったときの答えの1つは「ABC人間になりなさい」。A＝当たり前のことを、B＝バカにしないで、C＝ちゃんとやる。去年、一昨年と面接指導を行ったときに、座右の銘を持たない学生が多いことに気づき、提案したのがこれだったとか。ABC人間。伺っていて、これこそ村山さんの人柄そのものという気がしました。

【PROFILE】

昭和29年生まれ。東京都出身。昭和54年3月日本大学生産工学部土木工学科卒業。同年5月に東京都職員に。以来、水道局における配管・給水管・給水装置の設計、施工管理を皮切りに、都市計画局では臨海部及びりんかい副都心線の計画や六本木ヒルズなど民間再開発の指導等々を担当。総務局では三宅島火山災害対策の指揮を執るなど数々の事業に携わり、現在は第一建設設計事務所、都心3区のインフラの維持・管理に当たる。



平成 22 年度 表彰学生

総長賞

電気電子工学科 4 年

関 貴弘 (せき たかひろ)

優秀賞

機械工学専攻 M2

大野 卓哉 (おおの たくや)

軽金属学会誌「軽金属」Vol. 59, No. 12 (2009) に発表した「メカニカルミリング法と放電プラズマ焼結法による高強度純チタンの作製とその特性」により、創製した材料における強度と延性のバランスに優れた特性を示す可能性が示唆されたと高く評価され、平成 22 年度軽金属論文新人賞を受賞した。同賞は 30 歳未満の筆頭著者を対象に年 3 名以内に贈られる賞である。平成 22 年度は 3 名受賞。

優等賞 (26 名)

機 械 工 学 科	4 年 生	江 上 慶	土 木 工 学 科	4 年 生	原 延 基	応 用 分 子 化 学 科	4 年 生	加 藤 大 樹
〃	4 年 生	古 市 英 樹	〃	4 年 生	清 水 和 斗	〃	4 年 生	藺 部 百 合 香
〃	4 年 生	柳 田 勝 成	〃	4 年 生	荒 木 俊 篤	〃	4 年 生	阿 部 将 司
〃	4 年 生	江 上 靖 浩	〃	4 年 生	小 輪 瀬 辰 也	マ ネ ジ ム ン ト 工 学 科	4 年 生	矢 澤 龍 一
電 気 電 子 工 学 科	4 年 生	神 直 亨	建 築 工 学 科	4 年 生	金 丸 悠 紀 子	〃	4 年 生	中 元 敦 史
〃	4 年 生	小 倉 知 晃	〃	4 年 生	小 嶋 秀 和	〃	4 年 生	水 株 康 浩
〃	4 年 生	大 道 寺 英 則	〃	4 年 生	岩 井 友 美	〃	4 年 生	池 脇 弘 年
〃	4 年 生	清 沢 雅 洋	〃	4 年 生	岩 名 理 絵	数 理 情 報 工 学 科	4 年 生	荻 田 英 実
			〃	4 年 生	廣 澤 樹	〃	4 年 生	佐 々 木 夏 朗

善行・課外活動等による表彰学生

善行部門 (8 名)

建築工学科 4 年 古海 洋翔

2010 年国立西洋美術館で行われた、開館 50 周年記念「ル・コルビュジェと国立西洋美術館展」において、西洋美術館の構造を調査研究し、断面模型を制作。同展の意義を広く伝えることに協力した。また、同模型を美術館に寄贈・展示され、ル・コルビュジェの美術館構想と同館の現在の姿への理解を促す資料作品として活用され、同年 12 月 20 日国立西洋美術館長より感謝状が贈られた。

建築工学科 4 年 安藤 恭慎

2010 年国立西洋美術館で行われた、開館 50 周年記念「ル・コルビュジェと国立西洋美術館展」において、西洋美術館の構造を調査研究し、断面模型を制作。同展の意義を広く伝えることに協力した。また、同模型を美術館に寄贈・展示され、ル・コルビュジェの美術館構想と同館の現在の姿への理解を促す資料作品として活用され、同年 12 月 20 日国立西洋美術館長より感謝状が贈られた。

建築工学科 4 年 佐々木 朱美

2010 年国立西洋美術館で行われた、開館 50 周年記念「ル・コルビュジェと国立西洋美術館展」において、西洋美術館の構造を調査研究し、断面模型を制作。同展の意義を広く伝えることに協力した。また、同模型を美術館に寄贈・展示され、ル・コルビュジェの美術館構想と同館の現在の姿への理解を促す資料作品として活用され、同年 12 月 20 日国立西洋美術館長より感謝状が贈られた。

建築工学科 4 年 土屋 貴広

2010 年国立西洋美術館で行われた、開館 50 周年記念「ル・コルビュジェと国立西洋美術館展」において、西洋美術館の構造を調査研究し、断面模型を制作。同展の意義を広く伝えることに協力した。また、同模型を美術館に寄贈・展示され、ル・コルビュジェの美術館構想と同館の現在の姿への理解を促す資料作品として活用され、同年 12 月 20 日国立西洋美術館長より感謝状が贈られた。

建築工学科 4 年 野呂 龍一

2010 年国立西洋美術館で行われた、開館 50 周年記念「ル・コルビュジェと国立西洋美術館展」において、西洋美術館の構造を調査研究し、断面模型を制作。同展の意義を広く伝えることに協力した。また、同模型を美術館に寄贈・展示され、ル・コルビュジェの美術館構想と同館の現在の姿への理解を促す資料作品として活用され、同年 12 月 20 日国立西洋美術館長より感謝状が贈られた。

建築工学科 4 年 萩原 裕晃

2010 年国立西洋美術館で行われた、開館 50 周年記念「ル・コルビュジェと国立西洋美術館展」において、西洋美術館の構造を調査研究し、断面模型を制作。同展の意義を広く伝えることに協力した。また、同模型を美術館に寄贈・展示され、ル・コルビュジェの美術館構想と同館の現在の姿への理解を促す資料作品として活用され、同年 12 月 20 日国立西洋美術館長より感謝状が贈られた。

建築工学科 4 年 広原 慎也

2010 年国立西洋美術館で行われた、開館 50 周年記念「ル・コルビュジェと国立西洋美術館展」において、西洋美術館の構造を調査研究し、断面模型を制作。同展の意義を広く伝えることに協力した。また、同模型を美術館に寄贈・展示され、ル・コルビュジェの美術館構想と同館の現在の姿への理解を促す資料作品として活用され、同年 12 月 20 日国立西洋美術館長より感謝状が贈られた。

建築工学科 4 年 松本 卓

2010 年国立西洋美術館で行われた、開館 50 周年記念「ル・コルビュジェと国立西洋美術館展」において、西洋美術館の構造を調査研究し、断面模型を制作。同展の意義を広く伝えることに協力した。また、同模型を美術館に寄贈・展示され、ル・コルビュジェの美術館構想と同館の現在の姿への理解を促す資料作品として活用され、同年 12 月 20 日国立西洋美術館長より感謝状が贈られた。

課外活動部門 (体育系) (31 名)

柔道部 (5 名)

土木工学科 4 年 斉藤 正和

平成 20 年度第 49 回全日本理工科学生柔道優勝大会団体優勝
平成 21 年度第 50 回記念全日本理工科学生柔道優勝大会団体第 3 位

建築工学科 4 年 前田 隆之

平成 20 年度第 49 回全日本理工科学生柔道優勝大会団体優勝
平成 21 年度第 50 回記念全日本理工科学生柔道優勝大会団体第 3 位
平成 22 年度第 51 回全日本理工科学生柔道優勝大会団体第 3 位

応用分子化学科 4 年 田中 靖久

平成 21 年度第 50 回記念全日本理工科学生柔道優勝大会団体第 3 位

数理情報工学科 4 年 大越 洋志

平成 21 年度第 50 回記念全日本理工科学生柔道優勝大会団体第 3 位

数理情報工学科 4 年 田内 智也

平成 20 年度第 49 回全日本理工科学生柔道優勝大会団体優勝

陸上部 (2 名)

土木工学科 4 年 今田 篤志

平成 22 年度日本大学体育大会陸上競技会男子 400m 優勝

平成 22 年度日本大学体育大会陸上競技会男子 400m リレー団体優勝

土木工学科 4 年 畑中 昭平

平成 22 年度日本大学体育大会陸上競技会男子 100m 優勝

平成 22 年度日本大学体育大会陸上競技会男子 400m リレー団体優勝

平成 22 年度日本大学体育大会陸上競技会最優秀選手

バスケットボール部 (11名)
電気電子工学科 4年 八戸 淳
2008年理工系秋季トーナメント大会(主催:関東理工
系大学バスケットボール連盟)優勝
2009年理工系一部リーグ戦準優勝(主催:関東理工
系大学バスケットボール連盟)

電気電子工学科 4年 丸山 聡
2008年理工系秋季トーナメント大会(主催:関東理工
系大学バスケットボール連盟)優勝
2009年理工系一部リーグ戦準優勝(主催:関東理工
系大学バスケットボール連盟)

土木工学科 4年 亘 淳哉
2008年理工系秋季トーナメント大会(主催:関東理工
系大学バスケットボール連盟)優勝
2009年理工系一部リーグ戦準優勝(主催:関東理工
系大学バスケットボール連盟)

建築工学科 4年 岡田 昂
2008年理工系秋季トーナメント大会(主催:関東理工
系大学バスケットボール連盟)優勝
2009年理工系一部リーグ戦準優勝(主催:関東理工
系大学バスケットボール連盟)

建築工学科 4年 向山 浩司
2008年理工系秋季トーナメント大会(主催:関東理工
系大学バスケットボール連盟)優勝
2009年理工系一部リーグ戦準優勝(主催:関東理工
系大学バスケットボール連盟)

建築工学科 4年 吉田 拓真
2008年理工系秋季トーナメント大会(主催:関東理工
系大学バスケットボール連盟)優勝
2009年理工系一部リーグ戦準優勝(主催:関東理工
系大学バスケットボール連盟)

マネジメント工学科 4年 小野 和也
2008年理工系秋季トーナメント大会(主催:関東理工
系大学バスケットボール連盟)優勝
2009年理工系一部リーグ戦準優勝(主催:関東理工
系大学バスケットボール連盟)

マネジメント工学科 4年 佐藤 健太
2008年理工系秋季トーナメント大会(主催:関東理工
系大学バスケットボール連盟)優勝
2009年理工系一部リーグ戦準優勝(主催:関東理工
系大学バスケットボール連盟)

マネジメント工学科 4年 堤 泰地
2008年理工系秋季トーナメント大会(主催:関東理工
系大学バスケットボール連盟)優勝
2009年理工系一部リーグ戦準優勝(主催:関東理工
系大学バスケットボール連盟)

マネジメント工学科 4年 深瀬 暁史
2008年理工系秋季トーナメント大会(主催:関東理工
系大学バスケットボール連盟)優勝
2009年理工系一部リーグ戦準優勝(主催:関東理工
系大学バスケットボール連盟)

マネジメント工学科 4年 渡邊 崇好
2008年理工系秋季トーナメント大会(主催:関東理工
系大学バスケットボール連盟)優勝
2009年理工系一部リーグ戦準優勝(主催:関東理工
系大学バスケットボール連盟)

バレーボール部 (7名)
機械工学科 4年 中野 政宏
平成19年度日本大学体育大会バレーボール競技会優勝
平成20年度日本大学体育大会バレーボール競技会優勝

機械工学科 4年 西野入 康作
平成20年度日本大学体育大会バレーボール競技会優勝

土木工学科 4年 加藤 優
平成19年度日本大学体育大会バレーボール競技会優勝
平成20年度日本大学体育大会バレーボール競技会優勝

建築工学科 4年 寺島 良太
平成20年度日本大学体育大会バレーボール競技会優勝

建築工学科 4年 細田 雅希
平成19年度日本大学体育大会バレーボール競技会優勝

応用分子化学科 4年 成田 大河
平成19年度日本大学体育大会バレーボール競技会優勝
平成20年度日本大学体育大会バレーボール競技会優勝

マネジメント工学科 4年 田村 篤
平成20年度日本大学体育大会バレーボール競技会優勝

卓球部 (3名)
土木工学科 4年 加藤 英之
平成21年度日本大学体育大会卓球競技会団体優勝

数理工学科 4年 小原 俊介
平成21年度日本大学体育大会卓球競技会団体優勝

数理工学科 4年 芹澤 亮介
平成21年度日本大学体育大会卓球競技会団体優勝

水上スキー (1名)
建築工学科 4年 岡 綾子
平成22年度第55回桂宮杯全日本学生水上スキー選
手権大会女子ジャンプ個人第1位、女子スラローム
個人第1位になり同時に最優秀選手賞受賞(参加大
学8大学、女子エントリー選手56名)

スキー部 (2名)
建築工学科 4年 松岡 祐樹
平成21年度日本大学体育大会スキー競技会(オー
プン種目)男子団体総合優勝

応用分子化学科 4年 笠原 鮎市
平成21年度日本大学体育大会スキー競技会(オー
プン種目)男子団体総合優勝

課外活動部門(学術・文化系) (11名)

機械工学専攻 M2 大西 英雅
平成22年(社)強化プラスチック協会設立55周
年記念FRPCON-EX2010において「学生のFRP製
MEV車体製作コンテスト」(主催:強化プラスチック
協会)で銅賞受賞(応募数55件中受賞3件。高橋朋
哉他と共同製作)

機械工学専攻 M2 高橋 朋哉
平成22年(社)強化プラスチック協会設立55周
年記念FRPCON-EX2010において「学生のFRP製
MEV車体製作コンテスト」(主催:強化プラスチック
協会)で銅賞受賞(応募数55件中受賞3件。大西英
雅他と共同製作)

機械工学科 4年 網野 徹
平成22年(社)強化プラスチック協会設立55周
年記念FRPCON-EX2010において「学生のFRP製
MEV車体製作コンテスト」(主催:強化プラスチック
協会)で銅賞受賞(応募数55件中受賞3件。大西英
雅他と共同製作)

機械工学科 4年 大金 栄裕
平成22年(社)強化プラスチック協会設立55周
年記念FRPCON-EX2010において「学生のFRP製
MEV車体製作コンテスト」(主催:強化プラスチック
協会)で銅賞受賞(応募数55件中受賞3件。大西英
雅他と共同製作)

機械工学科 4年 鈴木 崇司
平成22年(社)強化プラスチック協会設立55周
年記念FRPCON-EX2010において「学生のFRP製
MEV車体製作コンテスト」(主催:強化プラスチック
協会)で銅賞受賞(応募数55件中受賞3件。大西英
雅他と共同製作)

土木工学専攻 M2 青木 忠尚
平成22年度全国大会第65回年次学術講演会優秀講
演者として表彰される(第IV部門361名中23名。
土木学会)

土木工学専攻 M2 根本 大
平成21年度全国大会第64回年次学術講演会優秀講演
者として表彰される(第I部門675名中51名。土木
学会)

土木工学専攻 M2 平野 雄也
平成22年度全国大会第65回年次学術講演会優秀講演
者として表彰される(第II部門321名中23名。土木
学会)

建築工学専攻 M2 伊藤 顕
2009年第1回文化遺産防災コンペティション「歴史都
市を守る。歴史都市を創る」(主催:立命館大学歴史
都市防災研究センター)で特別賞受賞(応募数68件
中入賞10件、宇野彰等共同制作)
2009年度JIA東海支部設計競技・一般の部「うちとそ
と」(主催:日本建築家協会)で銅賞受賞(応募数139
件中入賞8件)(宇野彰等共同制作)
2010年度日本建築学会設計競技「大きな自然に呼応
する建築」(主催:日本建築学会)で関東支部入選(宇
野彰等共同制作)
2009年度JACS全日本学生建築コンソーシアム「50年
デザイン住宅」で入選(応募数367件中30件、宇野
彰と共同制作)

建築工学専攻 M2 宇野 彰
2009年第1回文化遺産防災コンペティション「歴史都
市を守る。歴史都市を創る」(主催:立命館大学歴史
都市防災研究センター)で特別賞受賞(応募数68件
中入賞10件、伊藤顕等共同制作)
2009年度JIA東海支部設計競技・一般の部「うちとそ
と」(主催:日本建築家協会)で銅賞受賞(応募数139
件中入賞8件)(伊藤顕等共同制作)
2010年度日本建築学会設計競技「大きな自然に呼応
する建築」(主催:日本建築学会)で関東支部入選(伊
藤顕等共同制作)
2009年度JACS全日本学生建築コンソーシアム「50年
デザイン住宅」で入選(応募数367件中30件、伊藤
顕と共同制作)

建築工学専攻 M2 砂川 慶太
2009年第3回長谷工すまいのデザインコンペティシ
ョン「30戸の住宅から生まれ変わる集合住宅」(主催:(株)
長谷工コーポレーション)で佳作(応募数422件中入
賞13件)
2009年度第3回芸術センター記念コンペティション「
大不況下の複合商業施設」(主催:芸術センター顕彰
委員会)で入選(応募数非公認、入選7件)
第12回「まちの活性化・都市デザイン競技」(主催:(財)
都市づくりパブリックデザインセンター)で宇都宮市長
特別賞受賞(応募数25件中入賞8件、共同制作)
2009年度支部共通事業日本建築学会設計競技「アー
バン・フィジックスの構想」(主催:日本建築学会)で
北海道支部入選(応募数13件中4件、廣川慶一等と
共同制作)

桜泉祭・スポーツ大会関係 (6名)

機械工学科 4年 須永 育野
平成21年度スポーツ大会副委員長

応用分子化学科 4年 永倉 拓也
平成21年度桜泉祭実行委員会委員長

電気電子工学科 4年 木村 修也
平成21年度桜泉祭実行委員会副委員長

マネジメント工学科 4年 積田 壮平
平成21年度桜泉祭実行委員会副委員長

機械工学科 4年 大島 悠
平成20年度桜泉祭実行委員会委員長

応用分子化学科 4年 藤木 鉄平
平成19年度桜泉祭実行委員会副委員長

(平成23年3月10日現在)



平成23年度行事予定

行 事	2～4 年次：津田沼校舎	1 年次：実籾校舎	大学院	備 考
開 校 式		4 月 1 日（金）津田沼校舎	4 月 1 日（金）	
ガ イ ダ ン ス	4 月 4 日（月）～7 日（木） ※応化 2・3 年 4/1（金）から ※教職課程 4/2（土）	4 月 1 日（金）～7 日（木）	4 月 1 日（金）	4/2 にプレースメントテスト（1 年次生）・学力テスト（2 年次生）実施
入 学 式		4 月 8 日（金）		日本武道館
前 期 授 業 開 始	4 月 11 日（月）	※ 7/ 18（月）《海の日》は授業を実施		5/2（月）休校
定 期 健 康 診 断	4 月 12 日（火）～15 日（金）	女子学生：4 月 14 日（木）・15 日（金）		
ス ポ ー ツ 大 会		5 月 28 日（土）		
大学院入学試験(第1期)・学内選考			7 月 9 日（土）	
オ ー プ ン キ ャ ン パ ス	7 月 10 日（日）			
前 期 授 業 終 了		7 月 29 日（金）		7/16、7/23、7/30、8/1～8/5 は学部生授業予備日
補 講	土曜日適宜実施			
夏 季 休 業	8 月 6 日（土）～9 月 14 日（水）※応用分子化学科 1・2・3 年のみ 9/13（火）まで		7 月 30 日（土）～9 月 14（水）	
オ ー プ ン キ ャ ン パ ス	8 月 6 日（土）・7（日）			
オ ー プ ン キ ャ ン パ ス	9 月 4 日（日）			
後 期 ガ イ ダ ン ス	9 月 15 日（木）※応用分子化学科 1・2・3 年のみ 9/14（水）・9/15（木）		9 月 15 日（木）	
後 期 授 業 開 始	9 月 16 日（金）※ 1/13（金）は実籾校舎のみ授業、2/3（金）は津田沼校舎のみ授業			
A O 入 学 試 験	9 月 17 日（土）・18 日（日）			
卒 業 式・学 位 授 与 式（9 月）	9 月 29 日（木）		9 月 29 日（木）	
父 母 懇 談 会	9 月 24 日（土）津田沼校舎			11/5（土）に地方別を実施
創 立 記 念 日		10 月 4 日（火）		休校
校 友 子 女 入 学 試 験	10 月 15 日（土）			
外 国 人 留 学 生 入 学 試 験	10 月 15 日（土）		10 月 15 日（土）	
帰 国 生 入 学 試 験	10 月 15 日（土）			
編 入 学 試 験（2 年次・3 年次）	10 月 15 日（土）			
学 部 祭（桜泉祭）	11 月 2 日（水）～11 月 4 日（金）			（11 月 1 日準備日） （11 月 5 日片付日）
オ ー プ ン ラ ボ	11 月 3 日（木）			
指 定 校 制 推 薦 入 学 試 験	11 月 12 日（土）			
体 育 推 薦 入 学 試 験	11 月 19 日（土）			
ト ッ プ ア ス リ ー ト 推 薦 入 学 試 験	11 月 19 日（土）			
付 属 高 等 学 校 等 入 学 試 験（付 属 推 薦 B 方 式）	11 月 19 日（土）			
博 士 論 文 提 出 期 日			11 月 24 日（木）	
学 術 講 演 会		12 月 3 日（土）		
公 募 制 推 薦 入 学 試 験	12 月 10 日（土）			
付 属 高 等 学 校 等 入 学 試 験（付 属 推 薦 A 方 式）	12 月 17 日（土）			
冬 季 休 業		12 月 26 日（月）～1 月 9 日（月）		
後 期 授 業 終 了		2 月 3 日（金）		1/28、1/31、2/2、2/4～2/7 は学部生授業予備日
補 講	12 月 22 日（木）及び土曜日に適宜実施			
大 学 入 試 セ ン タ ー 試 験（C 方 式）	1 月 14 日（土）・15 日（日）			
修 士 論 文 概 要（初 稿）提 出 期 日			1 月 26 日（木）	
入 学 試 験	A 1 方 式	2 月 1 日（水）		
	A 2 方 式	2 月 9 日（木）		
	A 3 方 式	2 月 19 日（日）		
修 士 論 文 提 出 期 日			2 月 20 日（月）	
大 学 院 入 学 試 験（第 2 期）			3 月 3 日（土）	
転 科 試 験（2 年 次）	3 月 5 日（月）			
卒 業 式・学 位 授 与 式	3 月 25 日（日）		3 月 25 日（日）	日本武道館

個人情報の取扱い告知文

入学手続時及び在学中に収集する学生本人及び保証人の氏名、住所、生年月日及びその他の個人情報は、学籍・成績管理、教育、学生生活支援、学費の案内、図書館利用、就職支援等及びこれらの業務に付随する学生及び保証人への連絡・通知・掲示等、本大学の教育事業に必要な範囲で利用します。

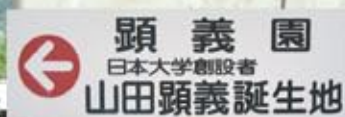
また、これらの業務の一部を業者に委託する場合があります。この場合、当該業務の委託を受けた業者は、上記利用目的の達成に必要な範囲を超えて個人情報を利用することはありません。

なお、本大学では、学生への教育・指導をより適切に行うため、保証人に対して学生の学業成績及び出席状況等の開示並びに履修状況等についての相談を行う場合があります。

（問合せ先） 生産工学部教務課・学生課

顕義園と松陰神社

山田顕義誕生の地



顕義園は、学祖山田顕義誕生の地に、日本大学が創立90周年を記念し、謝恩のため昭和54年（1979年）9月山口県萩市に建設したもので、高さ1.1mの台座に建つ高さ2.4mの「山田顕義先生之像」が印象的です。毛利家の菩提寺・護国山東光寺の近くにあり、萩市の遠望も楽しめ、松陰神社にも近い場所です。

松陰神社境内には、吉田松陰が開いた松下村塾や松陰が幽閉された家が残されています。



吉田松陰には多くの名語録が残されているが、松陰の門下生だった山田顕義も「立志尚特異 俗流與議難 不思身後業 且儉目前安 百年一瞬耳 君子勿素餐」（志を立てるためには人と異なることを恐れてはならない。死んだ後の業を思いわずらうな。また、目前の安楽は一時しのぎと知れ。百年は一瞬に過ぎない。だからいたずらに時を過ごすことのないように）という詩扇を与えられている。

スプリング

SPRING No.96

（日本大学生産工学部だより）

平成23年3月18日発行

編集・発行 日本大学生産工学部 広報委員会

本誌に関する照会その他は下記へお願いします。

〒275-8575 千葉県習志野市泉町1-2-1 日本大学生産工学部 庶務課

電話 047-474-2201 FAX 047-479-2432

E-mail: cit.shomu@nihon-u.ac.jp

www.cit.nihon-u.ac.jp